

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K17723

研究課題名（和文）祖父母の育児参加による幼児のパーソナリティ発達及び親子のQOLへの影響 日中比較

研究課題名（英文）Effect of Grandparents' participation in child-care on children's personality development and QOL of parents and children: a comparison study between China and Japan

研究代表者

孫 怡 (Sun, Yi)

立命館大学・立命館グローバル・イノベーション研究機構・研究員

研究者番号：10794688

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：日本と中国の都市部において、幼児を持つ家庭を対象に追跡調査（質問紙調査と面接調査）を実施した。祖父母の基本属性（年齢、性別、就労状況、住居距離など）や育児支援の内容・頻度や養育態度、母親の基本属性（年齢、性別、学歴、就労状況等）や養育態度/QOL（Quality of Life生活の質）、幼児の気質特性や問題行動等を調べた。得られた実証的データに基づいて、祖父母育児参加の実態を明らかにするとともに、祖父母のかかわりが親子のQOL（生活の質）と幼児の人格発達に及ぼす影響とそのメカニズムの解明に取り組んだ。日本と中国を比較しながら、異なる社会文化下における祖父母育児支援の相違も検討していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

超高齢化・少子化が進み、女性の社会進出困難などの社会問題を直面している日本と中国の都市部において、育児支援における祖父母力の活用が提唱されている。しかし、祖父母の育児支援が親子の心身健康に与える影響に関する研究がいまだに少ない。本研究により、日本と中国の異なる社会文化下における祖父母育児参加の実態及び文化差を把握することができた。各支援スタイルが親子の心身健康及び幼児の人格発達に与える影響を明らかにしたことが本研究の学術的意義である。本研究で得られた知見に基づいて、日本と中国の子育て家庭に関連情報を提供することで、家族のwell-beingを向上させることが本研究の社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：A follow-up survey (including questionnaire and interview) was conducted among families with young children in urban areas of Japan and China. We examined the demographic variables of grandparents (age, gender, employment status, residential distance, etc.), the content and frequency of grandparents' support in childcare, grandparents' childcare attitudes; the demographic variables of mothers (age, gender, education, employment status, etc.), mothers' childcare attitudes and quality of life (QOL); and the temperament characteristics and problem behaviors of children. Based on the empirical data obtained, we clarified the actual situation of grandparents' involvement in child-rearing, and revealed the effects of grandparents' involvement on the well-being of mothers and children. This study also compared the differences of grandparents' support in child-care between Japan and China.

研究分野：パーソナリティ心理学

キーワード：祖父母育児 養育環境 幼児のパーソナリティ 幼児QOL 母親QOL 文化比較

1 . 研究開始当初の背景

(1) 社会的背景

日本社会では、超高齢化および少子化が進み、労働力不足や女性の仕事・育児両立、待機児童問題など様々な社会問題が深刻になっている。その背景に、ワーク・ライフ・バランスに困難を抱える子育て世代に、「祖父母力」をより活用する動向があり、子や孫を支える私的資源としての祖父母の重要性が次第に高まっている（樋口，2006）。その中、子育てや共働きをする上で祖父母の支援を得やすい「近居」というライフ・デザインも注目されている（北村，2008）。しかし、そのようなライフ・スタイルは高齢者の QOL（Quality of Life、生活の質）、そして親世代、子どもにどのような影響を及ぼすか、日本の都市部ではまだ新しい社会形態であるため、様々な懸念がある。

一方、アジア隣国の中国社会では、日本と同様に少子高齢化問題に直面しているが、祖父母の力を借りて共同育児（co-parenting）ないし 3 歳まで完全に祖父母が孫を養育するのが一般的である。中国では、0-3 歳児向けの保育園がほとんどなく、育児における社会資源は欠如しているが、夫婦共働きや女性の産後早期就労復帰は実現できている。日本の「M 字型」女性労働力率に対して、中国の女性労働力率は「逆 U 字型」に安定しており、女性が産後でも積極的に社会生産に参加している状況である。その背後に、社会文化要因のほか、祖父母の育児支援が極めて重要な資源になっているからと考えられる。よって、日本の祖父母育児支援の可能性および影響力を検討する際に、中国の祖父母育児の現状および影響力も比較しながら検討する価値があると考えられる。日中祖父母育児の比較研究は両国の国民および日中国際結婚家庭や在日中国人の子育てにも重要な参考になると考えられる。

(2) 学術的背景

欧米でもアジアでも現代社会の高度経済発展につれて、女性の社会進出がますます必要となっており、それで親の代わりに祖父母の育児参加の割合が増加している（United States Census, 2012; 日本内閣府, 2014; 中国国家統計局, 2014）。欧米では、問題家庭（親の薬物乱用や入獄、離婚など）における祖父母などのアロマザリング（代理母）の役割について検討されているが、一般家庭における祖父母の育児参加に関する研究は未だ少ない。日本でも、特別配慮を要する乳幼児の家庭における祖父母の孫育児は検討されているが、一般家庭での祖父母育児研究はまだ実態把握程度にとどまっている。一般家庭における祖父母の育児支援または共同育児の影響についてより詳しく検討する必要がある。

祖父母育児（grandparenting）の関連研究の中で、祖父母の育児参加が高齢者自身の心身健康に及ぼす影響（Hayslip, Blumenthal, & Garner, 2014）は多く検討されている一方、祖父母の育児参加による親子の QOL への影響は未だに検討されていない。育児の主対象の子どもに焦点をあて、祖父母のかかわりが母親の心身健康、そして子どもの発達と心身健康にどのような影響を与えるのか、検討する必要がある。祖父母の育児参加は若い世帯（特に共働き夫婦）にとって、育児経験・時間・経済・情緒上などに強いサポートになることは大きなメリットにある一方、様々なデメリットの要素も考慮しなければならない。例えば、高齢者の身体機能の低下や、低 SES（Social Economic Status）などによる育児への悪影響が検討されている。祖父母育児が親子の愛着関係を混乱・破壊させる可能性も論じられている（Poehlmann, 2003）。しかし、それらはほとんど欧米の先行研究結果であり、アジア国における祖父母の育児影響はアジア特有な社会文脈の中で検討する必要がある。日本と中国はアジア文化の共通点を有しながら、それぞれ異なる社会文化があるため、各社会文化の下で実証研究を行う必要がある。

2 . 研究の目的

本研究では、祖父母の育児参加による親子の QOL への影響について、日本と中国を比較しながら、検討していくことを目的としている。さらに、中国の都市部では、6 割以上の家庭が祖父母と共同育児しているため、日頃から祖父母と子どもとのかかわりが多いと想定される。そのため、中国においては、祖父母の養育態度が子どもの QOL や気質・性格に影響を及ぼすも検討することである。日本では、都市部の育児世代を対象とした調査結果によって、厳密な意味では祖父母と共同育児している家庭は 1 割程度しかなかったものの、8 割ほどの母親は祖父母が子育ての頼りになっていると報告されている（ベネッセ，2011）。また、祖父母の育児支援が母親の育児不安を軽減する効果も見られている（八重，2003）。よって、日本においては、祖父母の育児支援が母親の QOL に与える影響、そして母親（例えば、母親の QOL や親子のかかわり）を介して子どもに及ぼす影響を検討する。具体的には、以下のようである。

(1) 日中祖父母育児参加の実態および影響力の比較（日中比較）

(2) 祖父母の育児支援が母親の QOL および親子関係に及ぼす影響（日中比較）

(3) 祖父母共同育児が幼児のパーソナリティと QOL に及ぼす影響（中国）

3 . 研究の方法

日本と中国において、それぞれ 1 歳児を持つ家庭を対象に、1 歳から 3 歳まで追跡調査（量的

質問紙調査と質的事例調査の併用)を用いて、両国の祖父母育児参加の実態における共通点と相違点を比較しながら、それぞれの社会文化の下で、祖父母育児参加(支援程度から共同育児まで)がどのように親の養育態度とQOLを媒介して幼児のパーソナリティ発達と心身健康に影響を及ぼすかについて、そのプロセスと因果的なメカニズムを調べた。調査手法と調査内容の概要は図1に示した。詳細は以下となる。

	Time1(1歳) <質問紙調査+面接調査>	Time2(2歳) <質問紙調査+面接調査>	Time3(3歳) <面接調査>
祖父母	育児参加度(日・中) 養育態度(中国)	育児参加度(日・中) 養育態度(中国)	育児参加度(日・中) 養育態度(中国)
母親	QOL(日・中) 養育態度(中国)	QOL(日・中) 養育態度(中国)	QOL(日・中) 養育態度(中国)
幼児	QOL(日・中) 問題行動(中国) 気質特性(中国)	QOL(日・中) 問題行動(中国) 気質特性(中国)	QOL(日・中) 問題行動(中国) 気質特性(中国)

図1 主な調査内容と調査手法

(1) 対象者と調査方法:

< 質問紙調査 >

日本では、2017年に関西都市部のある保育園の協力を得て、予備調査として50名の乳幼児を持つ母親に質問紙調査を実施した。予備調査の結果から、日本の祖父母育児参加状況はベネッセ次世代育成研究所が実施した「妊娠出産子育て基本調査」の結果とほぼ一致しているため、同研究所の許可を得て、「妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査」の1歳時期と2歳時期のデータを取得し、祖父母の育児支援および親子の心身健康と関連する部分を分析することにした。当該データは、日本の都市部に住んでいる乳幼児を持つ母親288名を対象に、子どもが1歳時期(2008年)と2歳時期(2009年)に実施した2回の追跡アンケート調査のデータである。

中国では、上海のある婦幼保健所の協力を得て、2017年~2018年の間に1歳児検診に来た1歳児の母親(522名)を対象に1回目の質問紙調査を実施した。1年後、同じ地域で2歳児検診に来た母親(601名)を対象に2回目の質問紙調査を実施した。その中、2回の追跡調査(1歳時点と2歳時点)とも参加した母親は236名であった。

< 面接調査 >

2018年から2021年の間に、日本と中国で乳幼児家庭を対象に年に1回で、計3回の半構造化面接法によるインタビュー調査を行った。日本の参加者は9名の母親で、三年間継続して参加した。一方、中国では、1回目の参加人数は9名であった。2回目は以前の参加者から2名が離脱して、新規2名が参加したことで、合わせて9名であった。3回目は新型コロナウイルス感染症拡大の影響があって5名が参加した。

(2) 調査内容:

< 質問紙調査 >

測定した主な指標は以下の通りである。

祖父母: 基本属性(年齢, 性別, 学歴, 経済レベル, 住居), 育児参加度, 養育態度(中国のみ)

母親: 基本属性, 生活の質(WHOQOL-26), 育児ストレス, 親子のかかわり, 母子愛着

幼児(中国のみ): 気質特性, 情緒・問題行動(Strengths and Difficulties Questionnaire, SDQ)

< 面接調査 >

上記の質問紙調査の中に取り上げた内容のほか、以下の情報も聞き取りした。

祖父母: 孫とのかかわり方・愛着関係, 祖父母の育児観, 祖父母と母親の関係性, 祖父母の育児支援による親子への影響

母親: 母親の育児観, 子どもとのかかわり方, 祖父母の育児支援に対する感想

子ども: 祖父母との関係性, 母親との関係性, 気質性格特性, 発達状況

4. 研究成果

< 質問紙調査 >

(1) 日本と中国の都市部における祖父母育児支援状況の相違

子どもが1歳時点における祖父母との会う頻度や祖父母との住居距離は表1に示した。また、祖父母の支援内容(多重選択)に関して、日本の上位4位は、「子育ての相談」(33%), 「子どもを預かってもらう」(29%), 「経済的支援」(9.9%)と「家事の手伝い」(9.7%)であった。中国では、「子どもの日常世話」(73%), 「家事の手伝い」(66%), 「休日に子どもと遊ぶ」(51%)

表1. 日本と中国の祖父母育児参加基本状況

祖父母と孫の会う頻度	日本(%)	中国(%)	祖父母との距離	日本(%)	中国(%)
ほぼ毎日	12.6	75.7	同居・二世帯住宅・同じ敷地内	4.6	61.6
ほぼ毎週	31.6	12.0	徒歩圏内	9.5	12.7
月に1回程度	26.7	3.6	電車・バス・車を使って30分以内	24.2	8.9
イベントや連休の時だけ	16.8	6.2	電車・バス・車を使って1時間以内	16.5	3.4
ほとんど会わない	11.2	2.2	電車・バス・車を使って1時間以上	35.1	3.4
まったく会わない	1.1	0.4	飛行機を利用する距離	10.2	10.1

と「子どもが病気の時の看病」(44%)であった。それで、日本と中国における祖父母の育児支援状況がかなり違うことがわかった。中国都市部における祖父母の育児参加度は日本より顕著に高いことが示された。しかし、主観意識上では、日本と中国両国とも、約55%の母親が「祖父母がとても頼りになっている」、約30%の母親が「やや頼りになっている」と感じた(祖父母がいない家庭を除き)。

(2) 祖父母育児支援による母親のQOLおよび親子関係への影響(日本と中国)

子どもが2歳時点における質問紙調査の結果によって、日本では、「祖父母の頼り程度」が母親の「社会的領域QOL」および「育児肯定感」、「育児負担感」との間に、有意な相関関係が見られた。つまり、祖父母からの支援が大きく感じたほど、母親の人間関係における満足度や育児に対する肯定感がより高く、育児負担感が少なかったことがわかった。特に、仕事を持っている母親の場合、その関係性がより強かった。そして、母親の各領域における生活満足度および母親の育児満足度(肯定感/負担感(逆項目))が親子のかかわりやしつけ、愛着関係との間に有意な相関が見られた。つまり、母親のwell-being(身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること)が育児の質とつながることが示唆されている。その中、祖父母の育児支援が母親のwell-beingを支える重要な要因の一つであるだろう。

中国においても、同様な傾向が見られた。祖父母支援ありの母親が支援なしの母親より生活満足度がより高かった。母親の職有無別で見た結果、母親が正規職の場合、祖父母の支援項目の数と母親の心理的QOL、親子愛着との間に有意な相関が見られた。つまり、母親が仕事を持っている場合、祖父母の育児支援による母親の心理的健康および親子関係への影響がより顕著であることが示唆されている。さらに、中国では祖父母と同居の家庭が多く、祖父母と親との接触も多いため、世代間の育児観における相違や育児理念の違いによる衝突などを調べた。その結果、祖父母と共同育児している家庭の中で、育児理念の違いによる衝突について、約10%の母親が「よくある」、約23%が「時々ある」、約51%が「たまにある」、約15%が「ない」と回答した。そして、世代間の衝突や母親の心理的/社会的QOLにネガティブな影響を与えることが検証された。逆に、祖父母の育児方式に対する満足度が高いほど、母親の各領域(身体、心理、社会、環境)における生活満足度や育児満足度が高かった。また、それら母親の心身状態は子どもとのかかわりの質と関連することが示されたことから、祖父母は母親を介して親子関係や子どもの心身健康に間接的な影響を及ぼすことが推測される。

(3) 祖父母育児参加による子どものパーソナリティとQOLへの影響(中国)

中国では、祖父母の育児参加度が非常に高く、日頃から孫との接触が多いため、祖父母のかかわりの量と質が子どもの気質特性と社会適応に及ぼす影響を調べた。1歳時点において、パス解析(図1)の結果によって、育児における世代間の衝突が母親のQOLおよび子どもの気質特性(反応激しさ)を媒介して、子どもの問題行動に影響を及ぼすプロセスが示唆された。つまり、世代間の衝突は母親の心身健康にネガティブな影響を与えることだけでなく、母親の心身状態を介して、子どもの社会適応まで影響を及ぼすことが示唆された。それは、母親の心身状態が悪いと、子どもとのかかわりの質も低下するだろうと推測される。一方、世代間の衝突は子どもに直接な影響を与えることもわかった。世代間の衝突が多いほど、子どもがフラストレーション状況下の反応がより激しく、問題行動もより多いことが示された。それは、世代間の衝突が多い場合、子どもが日頃にストレスフルな状況にさらされている可能性が高く、子どもの精神状態にネガティブな影響を与えたと推測される。また、観察学習の視点から、子どもが衝突場面に直面した場合、親または祖父母の過激的な言動を見て模倣した可能性も考えられる。

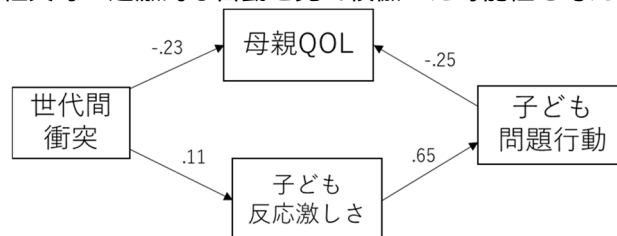


図2. 世代間衝突と親子QOLとの関連

2歳時点において、祖父母の養育態度(温かさ、コントロール)と母親の養育態度の間に、有意な相関が見られた。世代間の養育態度がお互いに影響し合うことが検証された。祖父母と孫と

のかかわりの量（時間）および質（温かい養育態度）と祖孫間の愛着関係との間に有意な相関があった。特に、温かい養育態度と愛着関係との相関がより強かった。祖孫間の愛着関係と親子間の愛着関係との間にも有意な相関があった。特に母親が仕事をしている場合、その関連性がより強かった。祖父母の温かいかわりによって、子どもがより安定した愛着関係（祖孫間および親子間）を形成されたと考えられる。安定型祖孫愛着関係を持つ子どもの向社会性がより高かった；逆に不安型祖孫愛着関係を持つ子どもは、情緒問題がより多く、多動傾向がより強かったことがわかった。さらに、母親就労群（祖父母の子育て参加度がより高い群）を対象に、重回帰分析を行った結果、子どもの気質特性や家庭基本属性（親の経済状況、学歴、仕事時間など）をコントロールしたうえでも、愛着関係から子どもの社会適応への影響が検証された。特に、不安型祖孫間愛着関係を持つ子どもの情緒問題と多動/不注意行動がより多かった。また、祖父母のかかわり時間が長いほど、子どもの玩具遊びや外遊び時間がより長く、親子のかかわり時間もより長いことが報告された。祖父母のサポートが多いほど、親も時間的・精神的に余裕があって、子どもとのかかわりがより多かったのではないかと推測される。このような豊かな養育環境（祖孫間のかかわりと親子間のかかわり）は子どもの精神健康につながることを示唆された。

< 面接調査 >

日本でのインタビュー調査によって、各家庭では祖父母と子どもとの関わり方がそれぞれ異なるものの、「子どもと楽しく遊んでくれることが一番助かった」と語った母親が多かった。つまり、祖父母と子どもとのかかわりが母親にとって最も助かったと感じられた。また、祖父母の介入がしすぎず、祖父母の余裕のあるかわり方を通して、母親が自分の親との関係を見直すことにもつながり、家族関係がさらに豊かになったことが示唆された。

中国でのインタビューに応じてくれた家庭では、子育て中の親世代はほぼ全員一人っ子であり、祖父母はリタイアしている。祖父母世代は家事全般を担う家庭もあれば、家事の手伝いさんを雇って祖父母は子どもの世話だけを担当する家庭もあった。基本的には祖父母が家事担当、親は子どもとの遊びや教育を担当する形で共同育児しているパターンが多かった。いずれの家庭においても、若い親世代は祖父母の育児への貢献が大きいと認識されている。一方、中国の家族構造と文化変容によって、親世代と祖父母世代の間に、子育て方針の不一致や葛藤も明らかになった。

以上の結果から、本研究では、日本と中国都市部の子育て家庭（1～3歳）における祖父母育児支援の現状を把握することができた。日中の社会文化によって、祖父母育児支援のスタイルは異なるものの、両国とも母親は祖父母の支援が強い支えになっていると認識されている。祖父母の育児支援は母親の生活満足度と育児満足度を向上させるだけでなく、親子関係や子どもの心身健康にもポジティブな影響を与えたことが検証された。一方、中国の場合、祖父母のかかわりが多い中で、育児理念における世代間の衝突も報告された。その世代間の育児理念の不一致は母親の生活満足度および育児満足度を低下させることが示された。また、世代間の衝突は子どもの反応や行動に直接的な影響を与えるだけでなく、母親の心身状態を介して、子どもの社会的適応にネガティブな影響を及ぼしたことも示された。今後、如何に祖父母共同育児のメリットを發揮させ、マイナスな影響を緩和させるかは、次の課題になると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sun, Y., Yoshitake, N., Sugawara, M., Matsumoto, S., Sakai, A., Takaoka, J., Goto, N.	4. 巻 27
2. 論文標題 Quality of life in Japanese couples during the transition to first-time parenthood	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Reproductive and Infant Psychology	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/02646838.2018.1540862.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sun, Y., Jiang, N	4. 巻 13
2. 論文標題 The Effect of grandparents' co-parenting on young children's personality and adaptation: Chinese three-generation-families	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Social Science	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5539/ass.v13n5p7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 1. Sun Yi, Jiang Lu, Gong Yang	4. 巻 17(6)
2. 論文標題 A Longitudinal Study of Parenting Style: Effect on Children's Personality and Social Adaptation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Schooling Studies (in Chinese)	6. 最初と最後の頁 79-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 0件／うち国際学会 7件）

1. 発表者名 孫怡・川本静香・妹尾麻美・連傑濤
2. 発表標題 育児期母親のQOL尺度の構造についての試み
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫怡・姜娜・連傑濤・矢藤優子
2. 発表標題 2 歳児の食事場面における問題行動について 中国における行動観察の試み
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 姜娜・孫怡
2. 発表標題 中国都市部乳幼児を取り巻く養育環境と子育て支援 上海 9 家族を対象とした 2 回目のインタビュー調査から
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yi Sun
2. 発表標題 Quality of life in Japanese couples during different child-care stages
3. 学会等名 7th Asian Congress of Health Psychology, Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Na Jiang & Yi Sun
2. 発表標題 An interview study of the parenting style in toddler families in Shanghai
3. 学会等名 Child Research Network Asia 3rd International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・連傑濤・眞田和恵・小島晴予
2. 発表標題 5カ月の乳児を持つ母親のかかわりと子どもの社会性発達に関連について
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sun, Y., Minagawa, Y., Hoshino, E., Kijima, N., Yato, Y.
2. 発表標題 Relationship between Temperament Traits and Brain Functional Connectivity in Resting State and in Emotional Arousal Condition: A NIRS Study.
3. 学会等名 International Convention of Psychological Science 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sun, Y. & Yato, Y.
2. 発表標題 Effects of grandparenting on young children's personality: a three-year longitudinal study
3. 学会等名 American Psychological Association 2018 convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sun, Y.
2. 発表標題 Grandparents' co-parenting and young children's temperament and attachment with parents." In Symposium "Family Relationships and Children's Development in China: from majority to minority
3. 学会等名 American Psychological Association 2018 convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Lian, J., Yato, Y., Sun, Y.
2. 発表標題 Comparative analysis of developmental state between rural left-behind children and un-left-behind children in Henan province of China
3. 学会等名 International Convention of Psychological Science 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫怡・董連・田中笑子・連傑濤
2. 発表標題 親子関係を行動から測る：かかわり指標（Interaction Rating Scale）の国際比較と今後の課題
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫怡・姜娜・連傑濤・矢藤優子
2. 発表標題 祖父母の共同育児が親子の心身健康に及ぼす影響－中国都市部1歳児を持つ家庭を対象に
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 姜娜・孫怡
2. 発表標題 現代社会における乳幼児の生育環境及び祖父母の育児参加と子どもへの関わり 中国都市部1歳児をもつ家族を対象とした行動観察とインタビュー調査
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 連傑濤・矢藤優子・孫怡
2. 発表標題 生活環境多様性が子どもの発達状態およびかかわり質に及ぼす影響
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫怡・姜娜・連傑濤・矢藤優子
2. 発表標題 中国都市部における祖父母の共同育児が親子のQOLに及ぼす影響
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第15回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 姜娜・孫怡
2. 発表標題 祖父母による育児参加と子どもへの関わりについてのインタビュー調査
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第15回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 孫怡・姜娜・矢藤優子
2. 発表標題 祖父母共同育児が親子のQOLおよび愛着関係に及ぼす影響 中国都市部1歳児をもつ家庭を対象に
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sun, Y
2. 発表標題 The Effect of grandparents' co-parenting on young children's personality and adaptation: Chinese three-generation-families
3. 学会等名 15th European Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 孫怡
2. 発表標題 都市部における祖父母育児参加が子どもの気質と親子愛着に及ぼす影響
3. 学会等名 日本発達心理学会29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 孫怡・姜娜・矢藤優子
2. 発表標題 祖父母育児が幼児のパーソナリティおよび社会適応に及ぼす影響 中国での1年間縦断研究
3. 学会等名 日本発達心理学会29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高岡純子・孫怡・田村徳子・後藤憲子・松本聡子・Barbara Holthus・菅原ますみ
2. 発表標題 子育て期の親の生活満足度に関する日独比較調査(2) - 親として重要であると考えられる役割 との関連 -
3. 学会等名 日本子ども学会第14回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅原ますみ・松本聡子・高岡純子・孫怡・後藤憲子・Barbara Holthus
2. 発表標題 子育て期の親の生活満足度に関する日独比較調査(1) - 職場および家庭でのストレス・心身の健康度との関連 -
3. 学会等名 日本子ども学会第14回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 孫怡
2. 発表標題 祖父母の育児参加と幼児のパーソナリティ：入園1年後
3. 学会等名 立命館人間科学研究所2017年度総会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Takaoka, J. & Sun, Y.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Iudicium Verlag, GmbH Munchen	5. 総ページ数 314
3. 書名 Parental well-being. Satisfaction with work, family life, and family policy in Germany and Japan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	姜 々 (Jiang Na)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	童 連 (Tong Lian)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関